

令和 元 年度

海南省地域防災活動支援事業 実績報告

～ 塩津地区 ～



令和元年12月

海南省

《 目 次 》

1. 概要	1
1.1 地域支援事業の趣旨	1
1.2 事業の目標	1
1.3 訓練想定	1
1.4 訓練参加機関等（大崎地区訓練含む）	2
1.5 実施概要	3
2. 防災研修会	6
2.1 第1回防災研修会	6
2.1.1 概要	6
2.1.2 実施風景	7
2.1.3 ワークショップの結果【塩津地区】	11
2.1.4 講師による講評	14
2.2 第2回防災研修会	15
2.2.1 概要	15
2.2.2 実施風景	16
2.2.3 主な協議事項等	17
3. 大東小学校 防災学習	18
3.1 概要	18
3.2 実施風景	19
4. 下津第二中学校 防災学習	20
4.1 概要	20
4.2 実施風景	21
5. 学生プログラム	22
5.1 概要	22
5.2 実施風景	23
6. 防災訓練	24
6.1 概要	24
6.2 訓練の状況	25
6.2.1 津波避難訓練	25
6.2.2 避難所運営訓練	29
6.2.3 ボランティアセンター運営訓練	34
6.2.4 ボランティア活動訓練	36
6.3 反省会	39
6.3.1 実施風景	39
6.3.2 主な意見等	39
6.4 大東小学校の取組	40
6.4.1 訓練の様子	40
6.4.2 訓練の感想（抜粋）	42
6.5 下津第二中学校の取組	43
6.5.1 訓練の様子	43
6.5.2 訓練の感想（抜粋）	45
7. 訓練報告会	46

7.1	福祉系専門職団体	46
7.1.1	概要.....	46
7.1.2	実施風景	46
7.1.3	主な意見等.....	47
7.2	社会福祉協議会.....	49
7.2.1	概要.....	49
7.2.2	実施風景	49
7.2.3	主な意見等.....	50
7.3	塩津地区.....	52
7.3.1	概要.....	52
7.3.2	実施風景	53
7.3.3	主な意見等.....	55

1. 概要

1.1 地域支援事業の趣旨

南海トラフ巨大地震に備え、近年の大規模災害を教訓とした避難時の適切な行動や知識を身に付けるとともに、地域力や受援力の強化を図るため、沿岸部に位置する「塩津地区」と「大崎地区」を重点地区として、津波避難訓練及び避難所運営訓練、災害ボランティア活動訓練等を実施する。

1.2 事業の目標

東日本大震災等の大規模災害において、「公助の限界」（行政が全ての被災者を迅速に支援することが困難、行政自身の被災による機能麻痺）が明確になったことを受け、地域住民の助け合いによる、救助活動、避難誘導、避難所運営など、「自助」「共助」による活動の重要性が再認識された。

地区内では、避難所運営において、自主防災組織及び住民一人ひとりが、物資の調達・配布、衛生管理、要配慮者の支援など、避難生活における具体的な役割を想定し、それぞれの避難生活時の行動を整理・実践するとともに、避難所では生活できない在宅避難者を支援することで、地区全体の避難者支援体制を構築する。

また、海南市と海南市社会福祉協議会が連携し、災害ボランティア活動訓練を実施することで、災害時にボランティアの効果的な支援を受けることができるよう、地域の受援力の強化を図る。

さらに、地域の小中学校や県内外の学生等と連携し、防災学習等の取り組みを進める。

1.3 訓練想定

フェーズ1 【発災直後】（9時00分～10時30分）

9月21日（土）午前9時00分、南海トラフ巨大地震が発生。市内全域で大きな揺れとともに、家屋の倒壊や土砂災害が発生。大津波警報が発表されるとともに、第1波が約40分後に到達。その後、南海トラフ巨大地震を想定した津波ハザードマップの浸水エリアが浸水。

フェーズ2 【発災5日後】（10時30分～12時00分）

南海トラフ巨大地震が発生し、5日経過。避難所では避難者があふれるとともに、家屋が無事な方は在宅避難中。発災時より、地域住民が協力し災害対応を行っているが、十分な公的支援が得られない状況。ライフラインは、電気・水道は停止。携帯電話は非常につながりにくい。

発災3日後には、国道42号が道路啓開。海南市災害ボランティアセンターを開設したことから、県内外から災害ボランティアが駆けつけはじめた。

1.4 訓練参加機関等（大崎地区訓練含む）

□主催 海南市、海南市社会福祉協議会

□訓練参加機関等

塩津地区自治会・自主防災会、大崎地区自治会・自主防災会、民生委員・児童委員、消防団、教育委員会、大東小学校、下津第二中学校、県内外の大学・大学院等、和歌山県、県内外社会福祉協議会、福祉系専門職団体、海南警察署、海南海草食品衛生協会、市内在住防災士、市内在住災害ボランティア、地元NPO団体、生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体構成員、学識経験者、その他団体・企業 等

□主な訓練参加者（地区住民除く）

<福祉系専門職団体>

県社会福祉士会、県介護福祉士会、県精神保健福祉士協会、県理学療法士協会
県作業療法士会、県介護支援専門員協会、県ホームヘルパー協会

<小・中学校>

海南市立大東小学校 参加学年 6年生
海南市立下津第二中学校 参加学年 1年生

<県内外の大学・大学院等>

東北大学、名古屋大学、神戸大学、大阪医専、大阪府立大学、関西大学、関西学院大学
京都建築大学校、宇都宮大学、明石工業高等専門学校、東京医療保健大学
兵庫県立大学、立命館大学、和歌山県立医科大学、和歌山信愛女子短期大学
和歌山大学、神戸大学研究チーム

<参加社会福祉協議会>

和歌山県社会福祉協議会、和歌山市社会福祉協議会、紀美野町社会福祉協議会
紀の川市社会福祉協議会、有田市社会福祉協議会、有田川町社会福祉協議会
みなべ町社会福祉協議会、北山村社会福祉協議会、石川県輪島市社会福祉協議会

<地元NPO団体>

NPO法人 ゆうゆうスポーツクラブ海南
NPO法人 下津スポーツクラブ
NPO法人 スポーツ・リパブリック・ソラティオーラ和歌山
NPO法人 海南市水泳協会

□後援

和歌山信愛女子短期大学、東京医療保健大学、和歌山県立医科大学、和歌山大学

□協力

株式会社オークワ、ながみね農業協同組合、株式会社セブニーイレブン・ジャパン
大塚製薬株式会社

1.5 実施概要

(1) 防災研修会

【第1回】

日時	令和元年6月28日(金) 19:00~21:00
場所	海南市民交流センター 視聴覚室
内容	1. 主催者挨拶 2. 講演 3. 令和元年度重点地区防災訓練について 4. ワークショップ 5. 今後のスケジュールについて

【第2回】

日時	令和元年7月26日(金) 19:00~20:00
場所	塩津コミュニティセンター
内容	1. 防災訓練当日のスケジュールについて 2. 訓練時の各活動班及び活動内容について 3. 訓練までの準備について

(2) 大東小学校 防災学習

【第1回】

日時	令和元年9月11日(水) 10:50~11:40
場所	大東小学校 視聴覚教室
内容	1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 2. ワークショップ

【第2回】

日時	令和元年9月19日(木) 10:50~11:40
場所	大東小学校 視聴覚教室
内容	1. 海南市防災訓練の予定について 2. 災害ボランティア活動訓練について

(3) 下津第二中学校 防災学習

【第1回】

日時	令和元年9月19日(木) 13:25~15:15
場所	下津第二中学校 視聴覚教室
内容	1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 2. 海南市防災訓練の予定について 3. 災害ボランティア活動訓練について

【第2回】

日時	令和元年9月21日(土) 13:30~15:30
場所	下津第二中学校 体育館
内容	1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 2. ワークショップ

(4) 学生プログラム

日時	令和元年9月20日(金) 16:00~19:00
場所	海南スポーツセンター
内容	1. 挨拶 2. 講座1 地域の声をきこう 3. 講座2 グループワーク 4. 訓練説明 5. 和歌山県の取り組み

(5) 防災訓練

日時	令和元年 9 月 21 日 (土) 9:00~12:00
場所	塩津地区内
内容	1. 津波避難訓練 2. 避難所運営訓練 3. ボランティアセンター運営訓練 4. ボランティア活動訓練

(6) 訓練報告会

【福祉系専門職団体】

日時	令和元年 10 月 25 日 (金) 19:00~20:00
場所	海南市役所 会議室 3 A
内容	1. 訓練結果について 2. 成果や課題について 3. その他

【社会福祉協議会】

日時	令和元年 10 月 30 日 (水) 10:00~12:00
場所	海南保健福祉センター 第 3 研修室
内容	1. 訓練結果について 2. 成果や課題について 3. その他

【塩津地区】

日時	令和元年 11 月 1 日 (金) 19:00~20:00
場所	塩津コミュニティセンター
内容	1. 主催者挨拶 2. 訓練の概要報告 3. 各活動班の課題等の報告 4. 今後の予定

2. 防災研修会

2.1 第1回防災研修会

2.1.1 概要

日時	令和元年6月28日(金) 19:00~21:00
場所	海南市民交流センター 視聴覚室
参加者	地区参加者 29名(塩津16名、大崎13名) 職員参加者 9名 社会福祉協議会 3名 学校関係 3名 和歌山県海草振興局 2名 見学者 3名 合計 49名
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 主催者挨拶2. 講演 テーマ「住民主体の避難運営が安全と安心を約束」 ～避難所開設と運営のポイント～ AD I 災害研究所 理事長 伊永 勉 氏3. 令和元年度重点地区防災訓練について 危機管理課及び海南市社会福祉協議会より事業概要について説明。4. ワークショップ ①避難所の使用方法について協議しよう 避難所の平面図を用いて、各スペースの配置を検討。 ②避難所運営体制について協議しよう 避難所運営本部体制の班構成や活動内容について検討。5. 今後のスケジュールについて ワークショップの未完成部分について、次回研修会までの提出依頼。第2回研修会の出席者届の作成依頼。

2.1.2 実施風景

1. 主催者挨拶



2. 講演の様子



【講演の要旨】

- ・熊本地震では、自動車避難生活を行った方が、エコノミークラス症候群になる等の健康被害が問題になる。ペットやプライバシーの問題など、避難所における様々なニーズへの対応が課題となった。
- ・時間が経過すると、家具等の荷物を持ってきすぎて身動きが取れなくなる人がいる。持ってくる荷物のルールを決めるのがよい。
- ・避難所の基本として、一番困っている人の支援を優先する事が重要。東日本大震災の死者は6割が高齢者。障害者の死亡率は健常者の2倍。
- ・避難者名簿を手に入れようとする者がいるため、名簿情報の公開には注意。
- ・避難所において、隣に近所の人がいると落ち着く。
- ・平等より効果優先の選択。食料等が足りない場合は、要配慮者から配給。
- ・ペットも被災するため、ケアが必要。人間より環境の変化に弱いため、飼い主同士の協力が重要。
- ・優しすぎるボランティアには注意。詐欺目的で来る人もいる。
- ・避難所の鍵は一人だけで保管せず、複数名で保管した方がよい。避難所付近で、常に誰かが家にいる方に預けておく事も効果的。
- ・食料等は、部外者が勝手に持って行かないよう、見える場所に置かない。
- ・学校が避難所になるため、避難所運営において、小中学生が大きな力になる。平時より、訓練や体験学習等を通じて、小中学生を育てる事が重要。

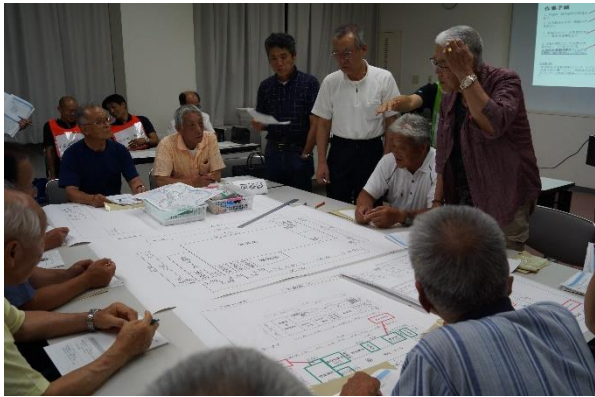
3. 令和元年度重点地区防災訓練について 訓練概要について説明



4. ワークショップ ワークショップの手順説明



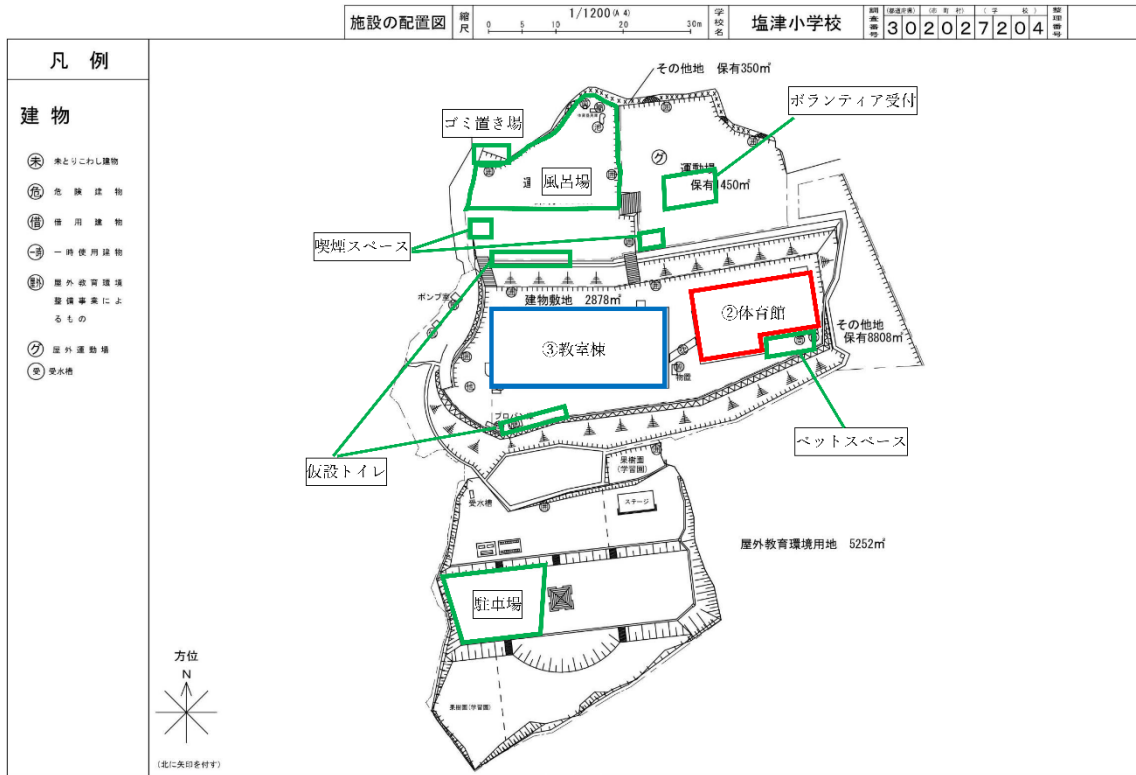
ワークショップの様子
【塩津地区】



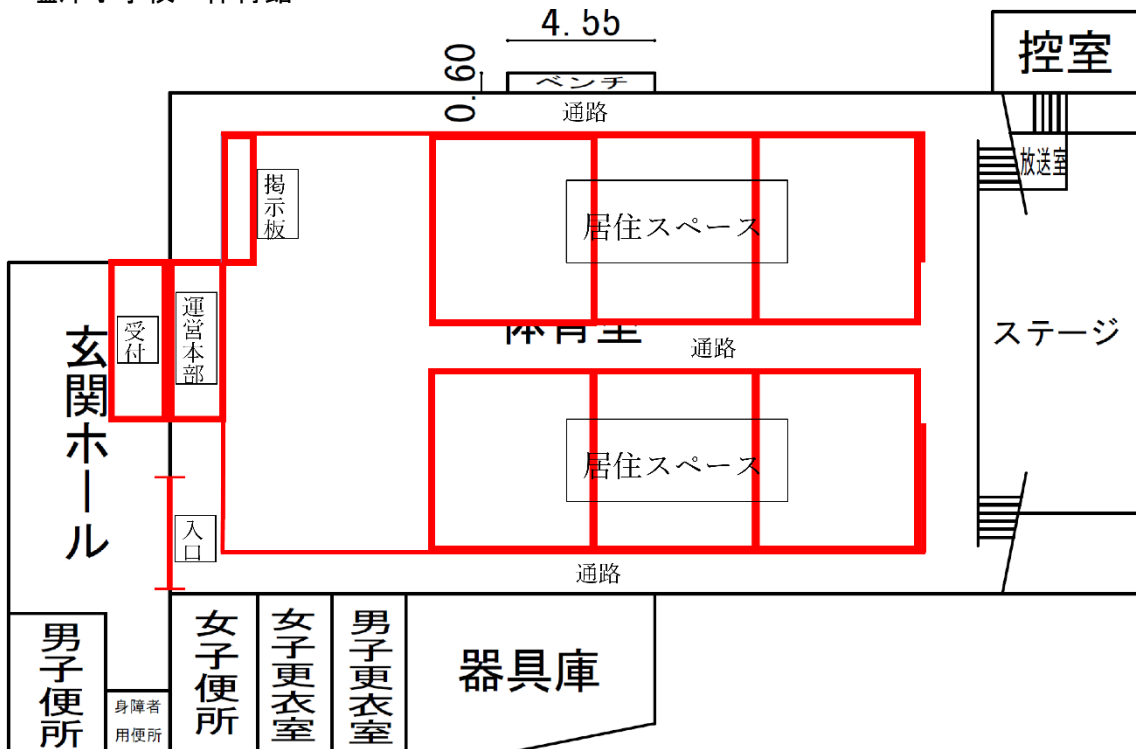
2.1.3 ワークショップの結果【塩津地区】

①避難所の活用方法の検討結果

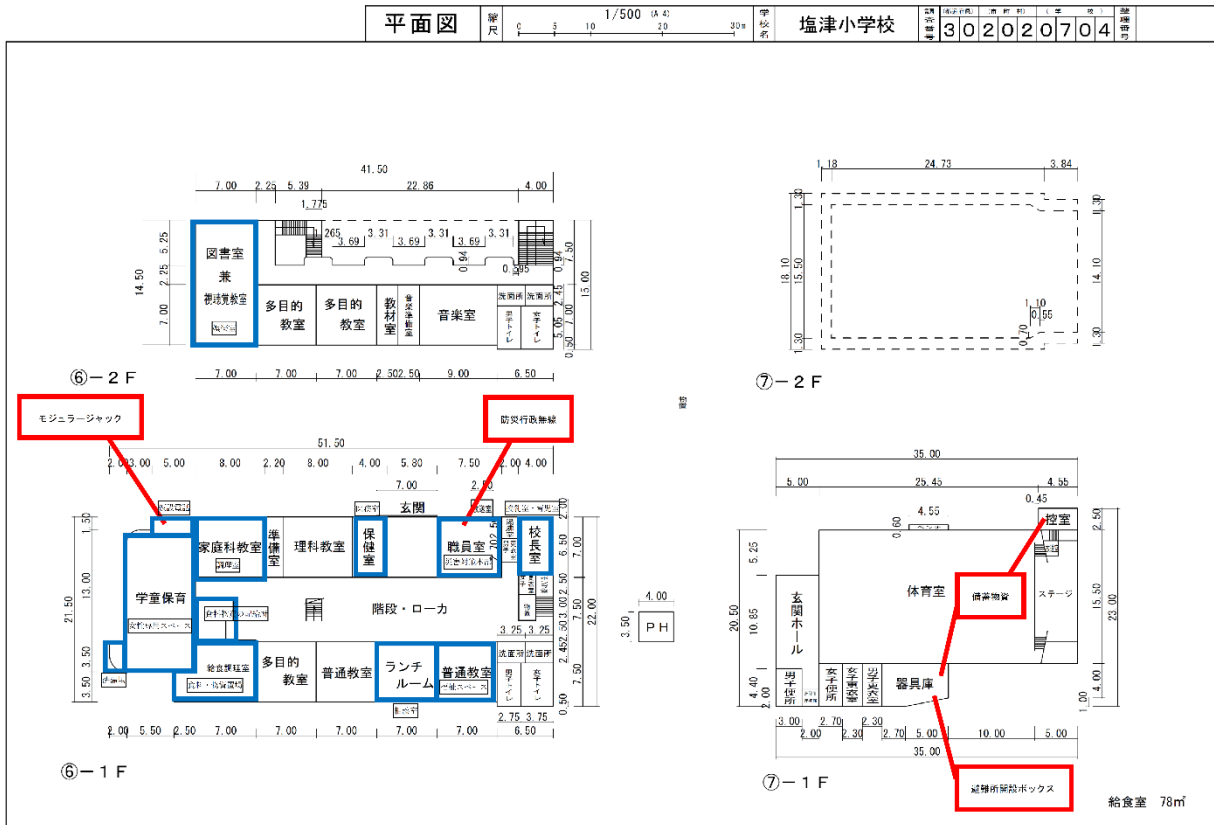
・塩津小学校 全体図



・塩津小学校 体育館



・塩津小学校 教室棟



② 避難所運営本部体制の検討結果

避難所運営本部における各活動班の役割協議シート

本部長 谷所 渉

副本部長 宮端 啓晴

川端 俊英

塩津地区

各活動班名称	総務班	被災者管理班	情報班	食料・物資班	施設管理班
班長	東海 義弘	東野 利治	南方 嘉門	丸谷 泰規	沓山 俊博
各班のメンバー	居住グループより選任	谷所 浩明、露峰 正継 吉田 裕次 各居住グループより選任 (男女各1名・計12名)	居住グループより選任	寺本 美子、9名選出済 (日赤奉仕団) 居住グループより選任	東海 善史、長谷 正弘 松尾 和人、大畑 善晴 宮・中地区は別途選出 避難者(健常者)より選任
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 避難所運営本部会議の事務局 避難所運営情報の記録 避難所生活ルールの作成と周知 在宅被災者の把握と各地区リーダーの選出 避難所運営の記録、写真撮影等 マスコミ対応 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所入退所届の管理 居住空間の区画整理と割り振り グループリーダーの選出 避難所生活ルールの説明 安否確認への対応 取材対応 郵便物・宅配便の取次 地区外からの避難者(釣り客等)の対応 個人からの安否情報確認への対応 避難者からの要望への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所内外の情報収集 市災害対策本部への情報発信 掲示板等による情報提供 ボランティアの要望の取りまとめ及び市社協への要請 行政からの安否情報確認への対応 行政関係機関との情報連携 在宅避難者や車中泊者への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 食料・物資の調達 食料・物資の受入 食料及び物資の管理と配給 炊き出し 調理スペース等の消毒 食事の栄養管理について 	<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所への対応 防火・防犯対策 照明の確保 避難所内居住空間の設定 トイレの管理 更衣室の確保 駐車場の確保 喫煙所の設置 ペットスペースの確保 洗濯場及び物干場の確保 生活用水の確保と置場の設定 消防団との連携 自動車の管理

各活動班名称	要援護・保健・衛生班	消防団	本部対応		
班長	鴻池 知	棟保 広行			
各班のメンバー	露峰 綾、小浦 由加里 居住グループより選任	宮脇 俊雄、南 良継 十数名			
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 要援護者の支援 医務室の確保と介護活動の実施 避難所内疾病者の把握 ごみ置場の確保 衛生管理 通院等の対応 避難者の健康管理 在宅避難者や車中泊者等の生活習慣病予防 居室部分の清掃 	<ul style="list-style-type: none"> 被害の軽減対応 危険箇所及び防火・防犯対策 遺体への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人避難者の対応 ボランティアスタッフの受入れ ボランティア活動記録の整理 避難者間のトラブルへの対応 在宅避難者や車中泊者の管理 		

2.1.4 講師による講評



【講評の要旨】

- ・ 協議に時間をかけると決断が遅れるため、リーダーを決め、従うことにした方がよい。
- ・ 決断には常に賛否はあるが、失敗したらリーダーを交代させたらよい。
- ・ リーダーの横に、手順や事務を理解している参謀がいることが望ましい。そんな組織づくりを目指してほしい。
- ・ リーダーは責任を感じすぎる人には苦しい。責任を感じすぎない人、スポーツ経験者、組織に慣れた人、声の大きい人等が適任。

2.2 第2回防災研修会

2.2.1 概要

日時	令和元年7月26日（金）19:00～20:00
場所	塩津コミュニティセンター
参加者	地区参加者 15名 職員参加者 7名 社会福祉協議会 3名 学校関係 4名 和歌山県海草振興局 2名 合計 31名
内容	<p>1. 訓練当日のタイムスケジュールについて 訓練当日の防災行政無線による情報発信のタイミング、フェーズ1からフェーズ2に切り替わるタイミング、それぞれの時系列における各活動班の取り組み内容について確認。</p> <p>2. 訓練時の各活動班及び活動内容について それぞれの時間軸に応じたより詳細な訓練内容について協議。</p> <p>【フェーズ1】 要配慮者の避難支援訓練の内容、ペット避難の対象者及び人数、避難所の開設準備の具体的取り組みについて説明。</p> <p>【フェーズ2】 避難所運営本部会議における役割、避難所内のボランティア聞き取り訓練、各班の活動内容について検討。</p> <p>3. 訓練までの準備について 在宅避難者役の方と二次避難者役の方への声かけ及び対象者リストの作成等について依頼。 また、居住スペースの区画割りや訓練結果の報告等を依頼。</p>

2.2.2 実施風景

1. 訓練内容の説明



2. 打合せの様子



地区打合せ



学校関係者打合せ

2.2.3 主な協議事項等

【質疑等】

- ・ 訓練で届けられる物資は、在宅避難者へも渡すのか。
→ 時間が限られているため、渡さない。今回の訓練では、限りある物資を、避難者及び在宅避難者に対し、どのように分けるのか検討してもらうことが重要。残った物資については、地区内で配布していただいてもよいが、全員に行き渡る数が確保できるか分からない。

- ・ 物資配布用にボランティアは何人つくのか。
→ 2名ほど。荷運び程度を想定している。

- ・ 要配慮者の避難にケアマネージャーがつく必要があるのか。実際、災害が起こった場合はケアマネージャーがいないため、意味がないのでは。
→ 今回の訓練では、要配慮者が、災害が起こった際にどのような行動をとるか、一次避難場所まで避難するのにどれくらい時間がかかるのか検証を行う事が目的。時間計測や記録については、神戸大学の教授や学生にも入ってもらう予定。
ケアマネージャーの参加については、本人の安全管理の面もあるが、自立支援の取組の一環として、一次避難場所までの散歩等、防災に関するメニューをケアプランの中に組み込んでほしいとの狙いもある。

- ・ 避難所開設職員の役割は何か。
→ 市の災害対策本部と避難所運営本部（避難者）との連絡が主な役割。

【その他】

- ・ 在宅避難者への聞き取りボランティアは、ゼンリンの地図しか持っておらず、土地勘もないため、在宅避難者宅へたどり着けない可能性がある。消防団による地域のパトロールの際に、迷っているボランティアに道案内をお願いする。
- ・ 避難所運営本部を体育館と職員室に2カ所設定しているが、訓練時の運営本部会議は職員室で実施する。
- ・ 学生プログラムにおいて、代表者2、3名程度で地域の紹介をお願いしたい。

【学校との協議】

- ・ 雨天時の対応について、訓練自体は雨天決行と思うが、大東小学校の参加については、学校側で判断する。

3. 大東小学校 防災学習

3.1 概要

【第1回】

日時	令和元年9月11日（水）10:50～11:40
場所	大東小学校 視聴覚教室
参加者	6年生児童 校長、6年生担当教諭
内容	1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 東日本大震災の教訓や体験談から、南海トラフ地震が起こった時に考えられる様々な課題について説明。 2. ワークショップ 南海トラフ地震が発生したことで、自分の周りでどんなことが起こるか時系列で考え、グループで意見を共有する。

【第2回】

日時	令和元年9月19日（木）10:50～11:40
場所	大東小学校 視聴覚教室
参加者	6年生児童 校長、6年生担当教諭
内容	1. 海南市防災訓練の予定について 訓練当日のタイムスケジュールについて説明。 2. 災害ボランティア活動訓練について 発災5日後を想定し、今回の訓練で実施する聞き取り訓練について、その必要性和取組の心構え、注意すべき点について説明。 また、当日着用するビブスの試着を行う。

3.2 実施風景



東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』



ワークショップ



海南市防災訓練の予定について



災害ボランティア活動訓練について

4. 下津第二中学校 防災学習

4.1 概要

【第1回】

日時	令和元年9月19日(木) 13:25~15:15
場所	下津第二中学校 視聴覚教室
参加者	1年生 生徒 1年生担当教諭
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 東日本大震災の教訓や体験談から、南海トラフ地震が起こった時に考えられる様々な課題について説明。 南海トラフ地震が発生したことで、自分の周りでどんなことが起こるか時系列で考える。2. 海南市防災訓練の予定について 訓練当日のタイムスケジュールについて説明。3. 災害ボランティア活動訓練について 今回の訓練で実施する避難者へのニーズの聞き取りについて、その必要性和取組の心構え、注意すべき点について説明。

【第2回】

日時	令和元年9月21日(土) 13:30~15:30
場所	下津第二中学校 体育館
参加者	全校生徒、教諭 応援社会福祉協議会 学生ボランティア
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 東日本大震災から学ぶ『感じる×考える』 東日本大震災の教訓や体験談から、南海トラフ地震が起こった時に考えられる様々な課題について説明。2. ワークショップ 東日本大震災をふりかえり感じたこと、南海トラフ地震が発生した時にできることを、応援社会福祉協議会職員と学生ボランティアと一緒に考える。

4.2 実施風景



第1回防災学習の様子



第2回防災学習の様子



ワークショップの様子



発表の様子



参加した大学生の感想

5. 学生プログラム

5.1 概要

日時	令和元年 9 月 20 日（金） 16:00～19:00
場所	海南スポーツセンター
参加者	学生ボランティア 神戸大学研究チーム
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 挨拶2. 講座 1 地域の声を聞こう 海南市社会福祉協議会より海南市の紹介。 塩津地区の方より、塩津地区の特色や防災の取組等について紹介。3. 講座 2 グループワーク 各大学別に学校所在地のアピールポイントの紹介。 東北大学渡邊さんより活動紹介。 東日本大震災をふりかえり感じたこと、南海トラフ地震が発生した時にできることを考える。4. 訓練説明 下津第二中学校における防災学習について説明。5. 和歌山県の取り組み 和歌山県の取り組みについて、和歌山県防災企画課より説明。

5.2 実施風景



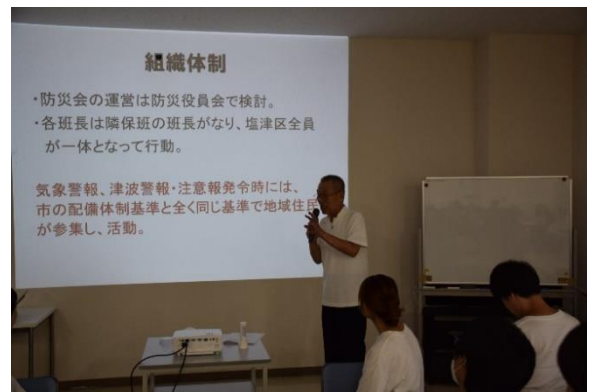
挨拶



海南市の紹介



塩津地区の紹介（区長）



塩津地区の紹介（防災会長）



各大学の紹介



ワークショップの様子

6. 防災訓練

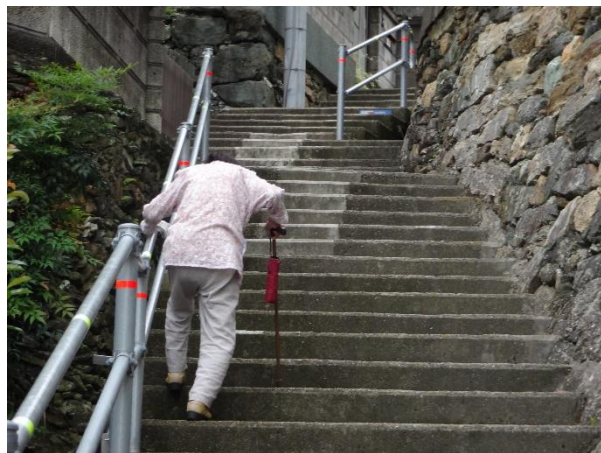
6.1 概要

日時	令和元年 9 月 21 日（土） 9:00～12:00																				
場所	塩津地区内																				
参加者	<p>○津波避難訓練</p> <table><tr><td>地区参加者</td><td>317 名</td></tr><tr><td>要配慮者避難対応スタッフ</td><td>28 名</td></tr><tr><td>合計</td><td>345 名</td></tr></table> <p>○避難所運営訓練</p> <table><tr><td>地区参加者</td><td>56 名</td></tr><tr><td>防災役員</td><td>40 名</td></tr><tr><td>在宅避難者</td><td>45 名</td></tr><tr><td>ボランティアスタッフ（小中学生含む）</td><td>115 名</td></tr><tr><td>スタッフ（市、社協他）</td><td>22 名</td></tr><tr><td>要配慮者避難対応スタッフ</td><td>28 名</td></tr><tr><td>合計</td><td>306 名</td></tr></table>	地区参加者	317 名	要配慮者避難対応スタッフ	28 名	合計	345 名	地区参加者	56 名	防災役員	40 名	在宅避難者	45 名	ボランティアスタッフ（小中学生含む）	115 名	スタッフ（市、社協他）	22 名	要配慮者避難対応スタッフ	28 名	合計	306 名
地区参加者	317 名																				
要配慮者避難対応スタッフ	28 名																				
合計	345 名																				
地区参加者	56 名																				
防災役員	40 名																				
在宅避難者	45 名																				
ボランティアスタッフ（小中学生含む）	115 名																				
スタッフ（市、社協他）	22 名																				
要配慮者避難対応スタッフ	28 名																				
合計	306 名																				
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 津波避難訓練2. 避難所運営訓練3. ボランティアセンター運営訓練4. ボランティア活動訓練																				

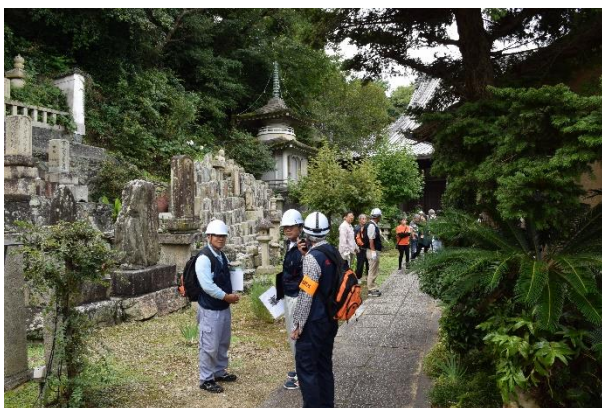
6.2 訓練の状況

6.2.1 津波避難訓練

1. 教徳寺 周辺



2. 極楽寺 周辺



3. 要配慮者避難支援訓練の様子



訓練開始前のミーティング



電動車いすを使用した避難



要配慮者の避難支援



車いすを使用した避難

4. 消防団の取組の様子



5. 市長視察の対応



6.2.2 避難所運営訓練

1. 訓練開始前の様子



体育館内（居住スペース）



ボランティアセンターミニサテライト

2. 避難者の受付



3. 災害対策本部の活動



避難者数の集計

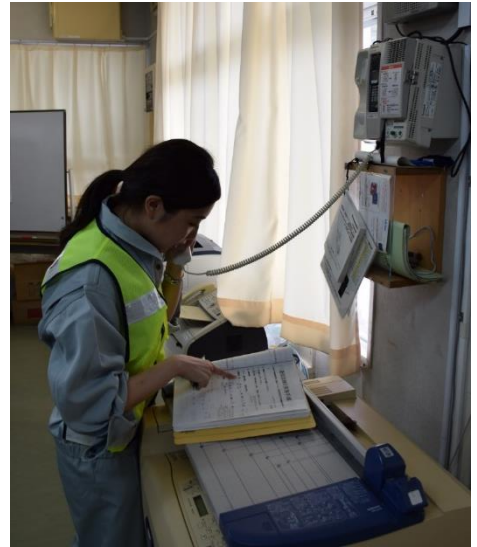


避難者への情報提供

4. 市との情報連携



避難所配備職員への情報提供



防災行政無線を使用した通信訓練

5. 避難所運営本部会議



6. 食料・物資班の取組



物資の搬入



配布方法の検討

7. 和歌山県緊急機動支援隊の聞き取り訓練



8. ペット避難の取組



9. ボランティア聞き取り訓練への対応



10. 段ボールベッドの組立訓練



6.2.3 ボランティアセンター運営訓練

1. 訓練開始前 (JAながみね しもつ支店)



2. オリエンテーションの様子 (JAながみね しもつ支店)



3. 受付の様子 (JAながみね しもつ支店)



4. ボランティアセンターミニサテライト（塩津小学校 グラウンド）



5. 各班別の打合せの様子



6.2.4 ボランティア活動訓練

1. 避難所内のニーズの聞き取り訓練



2. 在宅避難者の聞き取り訓練



3. 振り返りの様子



4. 炊出しボランティア



6.3 反省会

6.3.1 実施風景



6.3.2 主な意見等

- ・教徳寺からの報告に際し、トランシーバー（塩津区自主防所有）の電波が悪かった。
→冷水連合自治会自主防災会が使用しているトランシーバーを借りて、トランシーバーの性能により聞こえるか確認する。
- ・宮地区2班から、一時避難場所について、教徳寺ではなく極楽寺に避難したいとの申出があった。（標高が低い場所を通る必要があるため）
→一時避難場所の収容人数により教徳寺に避難してもらいたいと回答している。標高が低いところを通らなくても教徳寺には行ける。
- ・在宅避難所の聞き取り調査ができなかった人の把握ができなかった。
→不在1軒と聞いている。
- ・在宅避難者への聞き取りについて、道が分からなかったグループがいくつかあり、消防団が案内した。
- ・炊出し訓練について、塩津のボランティア団体も今回のような訓練をしたかったので、大崎に行けたら良かった。
- ・当日に準天頂衛星システムの安否情報訓練の話が追加された。
- ・避難所避難者より手持無沙汰の時間があったとの指摘を受けた。
→避難所避難者の方にも何らかの役割を持ってもらうような訓練を考えたいが、今回は聞き取りがあったため役割も持たせられなかった。

6.4 大東小学校の取組

6.4.1 訓練の様子

1. ボランティアセンターミニサテライト（塩津小学校）



2. ボランティア活動訓練



3. 災害関連死予防の取組（ラジオ体操）



6.4.2 訓練の感想（抜粋）

自助・共助が大切だということと、日ごろの訓練が本当に起こったときに活用できることを学びました。これから、本当に起こったとき、ボランティア活動をして、近所の人を助けたいです。

避難所に避難できてもその後どうなるかわからないことがわかりました。いろいろな人の手伝いをする中で、1つの命が守れることもあることがわかりました。

お年寄りの困りごとや不安なところを知れました。そのためには、地域の人みんなが協力しないといけないことがわかりました。

災害が発生した後は、元気がない人や、ハキハキ話すことができない人がいるので、ゆっくり、少しずつ、話を聞いていったらいいことがわかりました。

その人に関係する必要なものを見つけ届けたい。安心できるようにたくさんの人に話しかけたいです。

地域の方は、自分たちで役立つようにがんばっています。自分たちもがんばってみようと思いました。

6.5 下津第二中学校の取組

6.5.1 訓練の様子

1. ボランティアセンターサテライト（JAながみね しもつ支店）



2. ボランティア活動訓練



3. 災害関連死予防の取組（エコノミークラス症候群等の説明）



4. 炊出しの配膳



6.5.2 訓練の感想（抜粋）

海南市にはお年寄りが多いし、本当に災害が起きた時はお手伝いをしたいです。ボランティアにも参加したいと思いました。

訓練に参加し、ボランティアをすることによって学べることや、地域の方々の役に立てることがわかりました。また、自分の成長につながると思いました。人の助けになることを探し、積極的に参加できるようになりたいです。

協力する大切さを学びました。自分たちだけじゃなく、まわりのひとのことも考えて協力しようと思いました。

一人ではなく、みんながいると心強いし、みんなで助け合うすばらしさを学びました。困っている人がいたら、助けてあげたいです。

地域の人たちと関わりを深め、いざという時に助け合えるようにしたいです。また、そのために地域の行事にも参加したいと思いました。

地域のお祭りや行事などのお手伝いをしたいです。地域の人と関わることをしてみたいです。

7. 訓練報告会

7.1 福祉系専門職団体

7.1.1 概要

日時	令和元年 10 月 25 日（金） 19:00～20:00
場所	海南市役所 会議室 3 A
参加者	福祉系専門職団体代表者 9 名 （ 県社会福祉士会、県介護福祉士会、県精神保健福祉士協会 県理学療法士協会、県作業療法士会、県介護支援専門員協会 県ホームヘルパー協会 ） 社会福祉協議会 3 名 危機管理課 2 名 合計 14 名
内容	1. 訓練結果について 訓練の概要について社会福祉協議会より説明。 2. 成果や課題について 参加者が感じた成果や課題について意見交換。 3. その他 被災地支援等の情報交換

7.1.2 実施風景





7.1.3 主な意見等

【成果として挙げられた意見】

- ・福祉系専門職と各団体や一般ボランティアが連携できたことが大きな成果。
- ・福祉系専門職と連携する事で、一般ボランティアや学生の方でも、専門知識を要するニーズの聞き取り調査に取り組める事が分かった。
- ・災害対応への意識が高い大学生も、今回の訓練で福祉系専門職と一緒に行動することで勉強になったとの感想があった。聞き取りの方法一つでも、目線を合わせる、正面から声掛けするなど、専門家の方が当然のように行っている所作が学びに繋がった。
- ・小中学生について、事前学習・訓練・ワークショップを経て、災害時の福祉的取組に対する理解や意欲が大きくなっていくのがわかった。
- ・訓練により、ニーズを把握し伝えることや、情報を迅速に伝える目的がはっきりし、意識が高まった。
- ・災害時の行動が理解できた。
- ・地域の方が避難所を把握しており、積極的に訓練に取り組んでいた。ボランティア参加者も訪問回数が増えるにつれて聞き取りが上手になった。
- ・質問された避難者役の方も、お薬手帳の持ち出しが必要なこと等の気づきにつながったとの声があった。

【課題として挙げられた意見】

- ・災害関連死に関する情報の連携ができなかった。
- ・実際の災害時の連携について検討する必要がある。医療や法律の専門家との連携も必要。
- ・医療分野の対応も必要となることから、保健師の同行も必要だと感じた。
- ・質問形式になると被災者にとっては精神的な負担となる。実際は時間を掛けて、世間話から把握している。
- ・地図だけでは迷ったところがある。
- ・坂が多いため介護が必要な人の避難が大変だと思った。
- ・何回も声を掛けられると避難者の負担も増える。自治会や保健師による避難所内の調整も訓練できればなお良かった。
- ・避難生活 5 日後の設定での訓練であったため、聞き取りの質問シートの内容もそれに合わせたものにしても良かった。

【その他の意見】

- ・今回のようなチームでどこまでの事ができるか不安はあったが、小中学生や大学生の学びになったことはうれしい。
- ・今回の訓練では、基本的にそれぞれの福祉系専門職をリーダーとしてグループを組んだので、専門職同士の横の連携がなかった。
- ・現在、福祉系専門職の団体同士で連携する仕組みはないが、他の団体がどのような活動を行っているか、このような機会を通じて、平時から顔を合わせて情報共有したい。

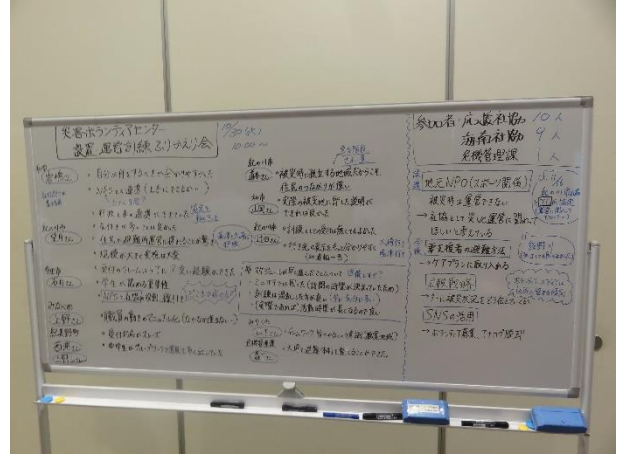
7.2 社会福祉協議会

7.2.1 概要

日時	令和元年 10 月 30 日（水） 10:00～12:00
場所	海南保健福祉センター 第3研修室
参加者	応援社会福祉協議会職員 10名 海南市社会福祉協議会 9名 危機管理課 1名 合計 20名
内容	1. 訓練説明 訓練の概要について社会福祉協議会より説明。 2. 成果や課題について 参加者が感じた成果や課題について意見交換。 3. その他 被災地支援等の情報交換

7.2.2 実施風景





7.2.3 主な意見等

- ・今回の訓練ではボラセンとNPOとの連携を実施しているが、一般のしっかりしたNPO団体は自身で支援活動を進める傾向がある。ボラセンの活動に協力してもらう協定などあるのか？

→特に協定等はない。今回は指定管理で施設を持っているNPOに声を掛けた。ねらいとしては、大規模災害が発生した場合、多くの施設が通常営業できなくなり、NPOの職員も仕事がない状態になることが想定されるため、そういった人材は災害対応に活用できるのではないかと考えている。今回はボランティアとして来てもらったが、どのように協力してもらうか、市も含めて協議が必要。(海南市社会福祉協議会)

→普段から定期的にNPOとの交流を持っており、台風等の機会に協力いただいている。(みなべ町社会福祉協議会)

→11月16日にJCと協定を締結する予定。ノウハウや人材が多く、大きな力になると思う。海南市とも協定したいとの意向を示されていた。(紀の川市社会福祉協議会)

- ・熊野川町では、紀伊半島大水害をきっかけに、「こんな危険なところに帰ってくるな」と若者に呼び掛けている。少々若者を取り込んでも、高齢化は防げないので、居るもので楽しく過ごすことが大切であると、若者の減少を逆手に取った取り組みを考えている。

今回訓練を行った塩津・大崎地区も、これからますます高齢化率が高くなっていくが、同じように、居るもので何とかしようという雰囲気を感じた。今後は、どの地域でも高齢化は共通の課題になっていくので、この2地区の取組をモデルケースに、他地区にも取り組みを発信できればよいと思う。(和歌山市社会福祉協議会)

- ・ ボランティアセンターサテライトから 20 分バスが早く出た。成功か？失敗か？
→ミニサテライトの立場から言うと、スケジュールが決まっている以上、早く来られると待ってもらえる時間があるので、困る面があった。
一方、ボランティアセンターサテライトとしては、早く出発していただいた事自体はよかったと思う。実際の現場では、はやる気持ちを抑えられないボランティアから、怒号が飛び交うことが常なので、いかに早く現地に向かわせるかがポイントになる。(海南市社会福祉協議会)
- ・ 社協同士でしっかりと顔が見える関係ができたことが大きい成果だと思う。このような機会が多く設けることが大事。(海南市社会福祉協議会)
- ・ 災害時は情報発信をいかに行うかがポイント。マスコミに取り上げられるかどうかで、ボランティアの支援も義援金も大きく変わるので、広報戦略が非常に重要。マスコミの拠点を呼び込んで、定点取材を行ってもらえれば、大きな支援が期待できる。(海南市社会福祉協議会)
- ・ 災害時には、行政、社会福祉協議会、NPOの3者が連携することが重要になる。今回の訓練で実践できたことは大きな成果。(海南市社会福祉協議会)

7.3 塩津地区

7.3.1 概要

日時	令和元年 11 月 1 日（金） 19:00～20:00
場所	塩津コミュニティセンター
参加者	地区参加者 13 名 海南市社会福祉協議会 3 名 和歌山県海草振興局 2 名 危機管理課 3 名 合計 21 名
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 主催者挨拶2. 訓練の概要報告 危機管理課及び社会福祉協議会より、各訓練の概要について説明。 また、要配慮者避難訓練の取組について、参加したスタッフや学識経験者方の所感を報告。3. 各活動班の課題等の報告 各活動班の班長より訓練において課題と感じたことについて意見交換。4. 今後の予定 危機管理課より訓練報告書の作成時期について報告。 また、塩津地区版「避難所運営マニュアル」の更新、「地区防災計画」の検討について依頼。

7.3.2 実施風景

1. 主催者挨拶



2. 訓練の概要報告



【報告の要旨】

- ・津波避難訓練は、地区参加者が 317 名。避難所運営訓練の参加者は地区参加者 56 名、防災役員 40 名、在宅避難者 45 名、ボランティアスタッフ 115 名、スタッフ（市、社協、県、警察等）22 名、要配慮者避難対応スタッフ 28 名、で合計 306 名。
- ・避難行動要支援者は、津波避難場所まで行くことを諦める人も出るかもしれないが、津波浸水区域外に出ることができれば助かる。避難路に、津波浸水想定ラインを明示することも一案。
- ・車の避難では、車いすなどが道の真ん中を進むと後ろが渋滞となる。一方通行のルートを予め地区内でルールとして決めておく必要がある。また、不測の事態に備えて、地震後何分で車を捨てて避難するなど決める必要がある。
- ・防災行政無線の音は、高齢者等で聞き取りにくい音域の場合もあるため、寺の鐘を叩くなど、多様な音で情報を伝達することを検討してはどうか。

3. 各活動班の課題等の報告



4. 区長挨拶



7.3.3 主な意見等

【総務班】

- ・和歌山県緊急機動支援隊への聞き取りに多くの時間を要し、ボランティアのミニサテライトや、体育館に行けなかった事で不満が残った。
 - ・フェーズ1と2の切り替えが難しかった。バタバタしていて、どこで何をやってきたか把握できなかった。
- フェーズの切り替えが難しかったという声は多かった。また、本部会議や緊急機動支援隊の聞き取りへの対応など、多くの取り組みを短時間に集約した事で全体把握が難しくなったと考える。(危機管理課)

【被災者管理班】

- ・毎年行っており、グループリーダーの選出等もスムーズに実施できた。
- ・マイクが必要だと感じた。
- ・訓練では例年と違うメンバーが入っても良いかもしれない。

【情報班】

- ・区内放送の活用ができなかった。道路問題等を周知しても良かった。
 - ・在宅避難者に向けた放送等もしても良かった。
- 大崎地区では区内放送を活用して、在宅避難者に向けた放送に取り組んだ。今後の訓練等で、様々な周知方法を検討いただきたい。(危機管理課)

【食料・物資班】

- ・物資の配布については、女性の方がテキパキと対応していた。食糧の配分や炊き出しの場面で、的確に状況判断ができる。女性も防災役員に入ってもらった必要性を感じた。物資の配分は人目につかない場所で行う方が良い。
- 必要なものが届かないのに、不必要なものが山程届くため、その管理が課題。どうしても避難所内に目が向かってしまい、避難所に行きたくても行けない人への支援が漏れてしまうので、在宅避難者への支援を忘れずに対応していただきたい。(社会福祉協議会)

【施設管理班】

- ・5年後にはリーダーも不在となる可能性がある。将来が不安。
- リーダーや防災役員が避難できないケースも十分考えられる。誰でも対応できるような、マニュアル作りが必要。(危機管理課)

【消防団】

- ・トランシーバーによる情報伝達ができなかった。
- ※後日、冷水の出力1ワットの機材を借りて試したら聞こえた。但し、導入に1台28,750円、さらに毎月9,000円のランニングコストが必要となる。
- ・消防団の無線も、本部よりデジタル化のため一旦回収されている。

【要援護者班】

- ・今回の訓練ではけが人の想定をしなかった。

【その他の意見】

- ・新宮では日頃から新宮高校の学生も含めてボランティア活動をしていたため、水害の際もボランティア活動がスムーズに組織できた。地元の資源を活用できる仕組みを考えたい。
 - ・今回は初めてペットの避難に取り組んだが、おとなしいペットばかりであったため、特に避難者からの意見や課題等はなかった。
 - ・車も財産と考える人も多いため、現実的に車の避難は増えると思う。今日の指摘を受けて、地区内で車避難の場合のルートや一方通行などのルールを考えたい。
 - ・塩津区では階段等に海拔表示を取り付けているが、今後、浸水想定ラインの表示についても検討したい。
 - ・地震後の救助・救出の作業についても、今後の訓練の取組として検討したい。
 - ・ボランティアにはどのように呼び掛けたか？
- 学生はSNSを活用し、一般ボランティアはHPで募集した。(社会福祉協議会)

【区長挨拶】

役員さんには何度も会議に出席いただくなど、大変ご苦勞をおかけしたおかげで、この訓練は成功したと思う。来年度の訓練や防災活動に、今回の課題や提言を活かしていきたい。

車避難のルール作りと、浸水想定ラインの表示は、特に力を入れていきたい。

令和元年度 地域防災活動支援事業 実績報告

～ 塩津地区 ～

令和元年 12 月

海南省 総務部 危機管理課

〒642-8501 海南省南赤坂 11 番地

TEL : 073-483-8406

FAX : 073-483-8483